

<本日のプログラム>

「ロータリーの友」11月号紹介
雑誌委員会 梅田整一会員



横書き

P3 RI会長メッセージ

P7 特集 ロータリー財団月間 グローバル補助金を知ろう

P14 アフリカ地域 野生型ポリオウィルス根絶

P16 地域に貢献するロータリーの芽 インターアクト

P18 どうなった？例会

P44 エバンストン便り:初の女性RI会長ノミニー ジェニファーE. ジョーンズ氏

P46 台北国際大会 郷に入っては...

ロータリー財団管理委員長からのメッセージ 財団を通じて未来に投資しよう

縦書き

P4 世界で活躍する人材 ロータリー平和センター

P13 私の一冊:日本の知恵ぐすりを暮らしに

「私の職業」

森田雅之会員



鳥取銀行に勤務しております銀行員です。

○銀行員のイメージは、最近では”半沢直樹”。土下座や料亭での会食、金融庁検査についてのお話。

○銀行を舞台にした高杉良が書いた”金融腐蝕列島”という小説がある。三和銀行がモデルといわれており、金融庁の検査の際に財務資料をトラックに載せて、検査官に見られないようにしたという話が書かれている。

○最近では山陰合同銀行の古瀬名誉顧問が書いた本を読まれると、”地域愛”をもって銀行員がどういう人生を歩んでいたかがわかる。

○昭和39年、大山町(旧中山町)生まれ。

○昭和62年4月に鳥取銀行入行。私の父も鳥取銀行に勤務していた。以前は親子で同じ銀行に勤めることはNGだったが、私の時から可能になった。

○米子本通り支店に配属。2年後赤碕支店に異動。5年後の平成6年には大阪支店に転勤となり4年間勤務。小切手の額が10億とか50億とかでカルチャーショックを受けた。ダイエーやマイカルなど担当。自分の人生の中において大きな経験になった。

○平成8年に米子東高校が選抜で甲子園に出場した際、仕事の途中に応援に行くこともできるようなおらかな時代であった。

○平成10年、米子支店に転勤。平井耕司現頭取と一緒にだった。西部青年中央会に入会。鳥取県西部地震の際には根雨支店が被災し、米子支店から物資を持って行ったことを思い出す。

○銀行員人生で大きな転機になったのが、平成12年に三和キャピタル(現在の三菱UFJキャピタル)というベンチャー投資会社に行ったこと。東京の京橋に本社があり、調査部に配属。50人くらいの会社で調査部は5人。東大、阪大大学院、一橋大、京大卒の中で仕事。ランチの際に会話に全く入れなかった。

○”エイベックス”(浜崎あゆみ所属)がマンションの一室で起業した直後に投資し、何十億というキャピタルゲインを三和キャピタルにもたらした伝説のキャピタリストがいた。

○平成21年からは本店営業部、鳥取、旗ヶ崎、米子中央、松江、そして今いる営業部と、30数年、銀行生活を続けてきた。

○最近のところでは、ゼロ金利のコロナ資金を鳥取県内では8000社(鳥取県の事業所の6~7割)が利用された。どのように経営のお手伝いができるかがこれからの大きな課題。

○お金以外に事業のお手伝いできることがないかを考えながら銀行員の仕事をしている。ドラえもののポケットのような存在になることを目指して、お客様の思いや夢が実現できるように、情報と情報、人と人、事業と事業をつなぐことで新しい化学反応が起こり、そこに新しいビジネスが生まれてウインウイン、トリプルウインになるようにお手伝いすることが私どもの仕事と考えている。何かありましたらお気軽にご相談ください。



次回プログラム

11/18 職場訪問 安来市総合文化ホール アルテピア
25 「コロナ禍におけるプロスポーツ」
株式会社SC鳥取 代表取締役社長 塚野真樹氏